

神田の名所案内

神田地区を通るときに、道路脇にこのような看板を目にしたことはありませんか。

神田に入るには三つのルートがあります。

- ① 田口方面から
 - ② 東栄町月から
 - ③ 新城市連合から
- そのいずれにもこの看板が設置してあります。



そこには「マップ片手に、お宝さがしてワクワクしよう」と書かれています。車を進めて神田の簡易郵便局（通称原田商店）まで行くと、店の前のポストにお宝が示されたマップが置いてあります。そして、この「お宝」こそが『神田の名所』なのです。

原田商店前から豊橋市神田ふれあいセンター（旧神田小学校）

に上がっていくと、校舎の前に大きな看板があります。これが「神田名所案内図」です。マップと同じ案内図が描かれています。



この看板の左下に木のポストがあり、この中にも配布用マップが置いてあります。さて、神田の名所とは一体何でしょうか。マップに沿って見ていきましょう。

① 神田の三滝

下流から一の滝（不動滝）、二の滝、三の滝（牛滝）と続く。

町指定有形文化財

② 玉ねぎ岩

千五百万年前に奥三河で活動した設楽火山の堆積物に眠るオニオンストラクチャー（玉ねぎ状構造）から取り出した岩塊

③ 神田の黒梅

幹・枝が黒いためこの名で呼ばれている。見ごろは三月下旬

④ サルガタのウバヒガン

一本で山を覆うほどの見事さがある。見ごろは四月上旬

⑤ 神田最古の馬頭観世音

延享三年（一七四六）四月とあり、神田では最も古い馬頭観音である。約二七〇年前のもの

⑥ 原の庚申塔

天和二年（一六八二）九月神田村とあり、庚申塔としては珍しい像と言われている。

⑦ 弁天淵の石祠

長篠合戦で敗れた武将（武田方）の奥方が殺害され、その片腕が流れ着いたという往時の信仰の一端がうかがわれる。

⑧ 田代のヒメシヤラ

落葉高木 姿・形がいい感じ。太さは日本一かも？ 町指定有形文化財

⑨ 田代のオハツキイチヨウ

葉にイチヨウの実が付くので、こう呼ばれている。見ごろは九月下旬

⑩ 田代の石仏群

子安観音、妻（塞）の神、弘法大師、栗嶋大明神（安産の神）など多数ある。往時の信仰の一端がわかる。

⑪ 田代のミツマタ

和紙の原料として使われる。

⑫ 不動滝（別名アミ滝）

暮らしのために栽培・出荷していたことから今の群生となっている。見ごろは、若葉のころ。水量の多いとき

マップ片手に神田を散策していると、こんな標識に出くわします。名所への道案内です。これら一連の地域の文化財を守り・広める活動を、神田の地域づくり委員会が中心に行っています。



（設楽町文化財保護審議会委員

氏原 周次）

